

昭和61年度  
帰国研修員フォローアップチーム報告書  
——農業普及コース——

昭和62年1月

国際協力事業団  
研修事業部



昭和61年度  
帰国研修員フォローアップチーム報告書  
——農業普及コース——

昭和62年1月

JICA LIBRARY



1050342[3]

国際協力事業団  
研修事業部

国際協力事業団

受入 月日	'87.5.9	122
登録 No.	16303	80-7 TAD

## はじめに

この報告書は、我が国が実施してきた集団研修「農業普及コース」に参加した帰国研修員に対するアフターケア業務の一環として、昭和61年10月27日から11月15日までの20日間、タイ、ビルマ、スリ・ランカの3ヶ国に派遣した帰国研修員フォローアップチームの業務報告である。

本書が、帰国研修員の活動状況、彼らが抱えている諸問題、要望等について関係各位の一層深いご理解をいただくための一助となり、今後の研修コース、また研修員受入事業の改善に資することができれば幸いである。

なお、本件の実施のためにご協力を賜った外務省、農林水産省、社団法人全国農業改良普及協会及び現地において数々のご指導とご協力を賜った在外公館並びに関係機関に深甚の謝意を表したい。

昭和62年1月

研 修 事 業 部 長

岡 部 和 夫





タイ帰国研修員に対する  
公開セミナー

ビルマ農業普及職員による  
指導風景



スリ・ランカ政府要員および  
帰国研修員との懇親会





## 要 約

農業普及コース帰国研修員フォローアップチームは昭和61年10月27日より11月15日にかけてタイ、ビルマ、スリ・ランカの3ヶ国において巡回指導をおこなったが、その要約は以下のとおりである。

### (1) 対象面接者

1) 訪問国の受入機関責任者ほか。

予定していた全員と面接できた。

2) 帰国研修員（昭和45年以降の研修員）45名中37名と面接できた。（面接率82%）

### (2) 訪問国における研修に対する評価と要望

1) 帰国研修員の活動実績を大きく評価している。とくに行政的見地からの評価は高い。

2) 本コースに期待すると同時に、今後の継続と受入幅の拡大を要望している。

### (3) 帰国研修員の現況と要望

1) 帰国後、現場普及職員を訓練する立場にある者が多く、日本での研修の成果が大きく生かされている。

2) 普及活動に関する新しい資料の継続的な提供を求めている。

### (4) 公開セミナーの開催と新しい教材の配布

「Outline of Agricultural Extension Service in Japan」「Agricultural Extension Method」を配布すると共にスライド「面接法」「ポスターの作り方と利用法」を映写・講義を行った。

さらに、帰国研修員たちが、現在、活動上必要としている諸問題の解決について話し合い、助言を行った。

(5) このほか、Questionnaire を中心に、本コースの評価、要望を聴取すると共に、訪問国の普及活動に関する実情および帰国研修員の活動状況などを把握した。

(6) 以上の結果、本コースが果たしてきた効果を確認すると共に、今後のカリキュラムの中に、「演習部門」の拡充、「栽培管理技術部門」や「国際マーケティング部門」の要素を加味する必要性が認められた。



## 目 次

I	派遣チームの概要	1
1.	チーム派遣の目的	1
2.	団員構成	1
3.	調査日程	1
4.	主要面会者リスト	2
II	フォローアップ調査内容	4
1.	当該国における当該技術の現況	4
(1)	一般事情	4
(2)	関係機関現況	4
2.	帰国研修員の現況	11
3.	帰国研修員に対する調査結果	14
(1)	Questionnaire の集計・分析結果	14
(2)	面接内容	14
(3)	日本での研修効果の測定	15
(4)	帰国研修員よりコース改善に対する要望等	15
4.	当該国における研修員の応募・選考・派遣状況	18
5.	研修コースの問題点及び改善への提言	18
III	技術指導内容	19
1.	実施状況（日時・場所・参加者数）	19
2.	実施内容（講師及び講義内容要約、使用テキスト、フィルム名等）	19
3.	参加者質疑応答内容（要約）	19
IV	添付資料	20
1.	当該コースの概要	20
(1)	コース開設年及び開設の経緯	20
(2)	昭和61年度研修プログラム	23
(3)	国別帰国研修員数	29
(4)	コース終了時のエバリュエーション集計結果	30
2.	当該国帰国研修員リスト	31
3.	Questionnaire	36
4.	当該国訪問機関に提出した英文報告書	47

4. 当該国訪問機関に提出した英文報告書 .....	47
----------------------------	----

## I 派遣チームの概要

### 1. チーム派遣の目的

農業普及コースを受講した研修員のその後の動勢と活動状況及び研修員、派遣機関等から農業普及コースに対する意見等、現地の実態を把握して、研修の効果と問題点を確認し、併せて研修員の活動上の問題について助言指導を行い、今後における本コースの効果的研修実施に資することを目的とする。

### 2. 団員構成

加藤政信	農業普及専門家 (元埼玉県本庄農業改良普及所長)
磯野定夫	(社) 全国農業改良普及協会 普及資料部長
野末雅彦	国際協力事業団研修第一課副参事
※林 克明	農林水産省経済局 国際部国際協力課係長

※林団員は、農林水産省経費にて、10月27日から11月9日の間、タイ、ビルマ2ヶ国に同行調査を行った。

### 3. 調査日程

日順	月 日	曜 日	日 程
1	1986年 10月27日	月	東京発→バンコック (TG641)
2	28日	火	JICA打合せ, 大使館表敬, D. T. E. C表敬, 意見聴取
3	29日	水	農業共同組合省普及局表敬・意見聴取, 公開セミナー, 懇親会
4	30日	木	スパンブリ訓練センター視察, 東部地区農業普及所視察
5	31日	金	国立農業訓練センター, 農業機械化センター視察, JICA, 大使館報告
6	11月 1日	土	近郊農家視察
7	2日	日	資料整理
8	3日	月	バンコック→ラングーン (TG305)
9	4日	火	JICA打合せ, 大使表敬, 農業公社表敬・意見聴取, 公開セミナー, 懇親会
10	5日	水	中央農業開発訓練センター視察
11	6日	木	レグー地区農業普及所視察
12	7日	金	F. E. R. D表敬, JICA・大使館報告
13	8日	土	ラングーン→バンコック (TG306)

14	9日	日	バンコック→コロンボ (TG307)
15	10日	月	JICA 打合せ, 計画財務省対外援助局表敬, (キャンディへ移動)
16	11日	火	農業開発研究省農業局表敬, 公開セミナー, 懇親会 (コロンボへ移動)
17	12日	水	公開セミナー, 懇親会
18	13日	木	JICA, 大使館報告
19	14日	金	コロンボ→バンコック (TG308)
20	15日	土	→東京 (JL718)

#### 4. 主要面会者リスト (帰国研修員は別掲)

##### (1) タイ

日本国大使館一等書記官	永山勝行氏
JICA タイ事務所所長	後藤教基氏
"	笠原秀昭氏
Mr. P. Soontornpipit	Director of Division I, D.T.E.C
Mr. S. Susila	Japan Sub-Division, D.T.E.C
Mr. P. Wannapee	Deputy Director, Department of Agricultural Extension
Mr. E. Ocharoen	Planning & Special Projects Division Department of Agricultural Extension
Mr. V. Sasiprapa	Assistant Training Manager, Suphanburi Training Center
Mr. Chida	Expert from Japan
Mr. C. Choovizit	Director of Eastern Agricultural Extension Office

##### (2) ビルマ

日本国大使館大使	塚本政雄氏
" 一等書記官	河田直美氏
JICA ビルマ事務所所長	篠浦 烈氏
"	喜多村裕介氏
U Kin Win	Managing Director, Agriculture Corporation
Dr. Aung Myint	Project Manager, CADTC
Mr. S. Nakamura	Leader of Expert, CADTC
U Kyin Htun	Township Manager, Hlegu Township
U Kyaw Tin	Director, F.E.R.D
U Tin Oo	Chief of Section, F.E.R.D

(3) スリ・ランカ

日本国大使館参事官

卜部敏直氏

〃 三等書記官

松本 淳氏

JICA スリ・ランカ事務所長

橋口次郎氏

〃

木村精一氏

Mrs. C. Amarasekera

Additional Director

Dept. of External Resources

Dr. Gunawardene

Director, Dept. of Agriculture

Peradeniya

Mr. Pabeywardena

Deputy Director (Extension Division) Dept. of Agriculture

Peradeniya

Mr. M.P.B. Abeyinghe

Assistant Director.

Dept. of Agriculture Peradeniya

## Ⅱ フォローアップ調査内容

### 1. 当該国における当該技術の現況

タイ

#### (1) 一般事情

国土の29%に当たる1,450万haが耕地で、500万農家の90%が自立経営をしている。

主な農産物は、米、トウモロコン、キャッサバ、ケナフ、砂糖キビ、ゴム、落花生、大豆、各種果樹（ランブータン、ドリアン、サボン、マンゴスチン、オレンジ、ココナッツ、パイナップル）、畜産（豚、牛、鶏）。

タイの農業は、輸出産業として位置づき、良質・低コストによって国際競争力をつけていくことが必要で、普及員等による農業指導も、こうした背景の中で進められている。

#### (2) 関係機関の現況

タイの普及事業は1955年にはじまり、別掲組織図の機構で運営されている。普及所は、州（省）で73、地区に715設置されており、普及職員は、現場専技（Field SMS）405名、現場普及員（Field Extension Advisers）5,631名、生活改善普及員715名、このほかに6,000名の行政関係職員がいる。

普及職員の大部分は農業学校卒で、そのうち10%は学士、専技は少なくとも農業分野での学士でなければならないが、彼らの20%以上は修士号を持っており、更に本省には学位を得ている者が数名いる。

普及職員の主な活動は、農家に対して、国際競争力がつくよう、良質・低コストの精算指導、青少年の育成、それに生活改善である。

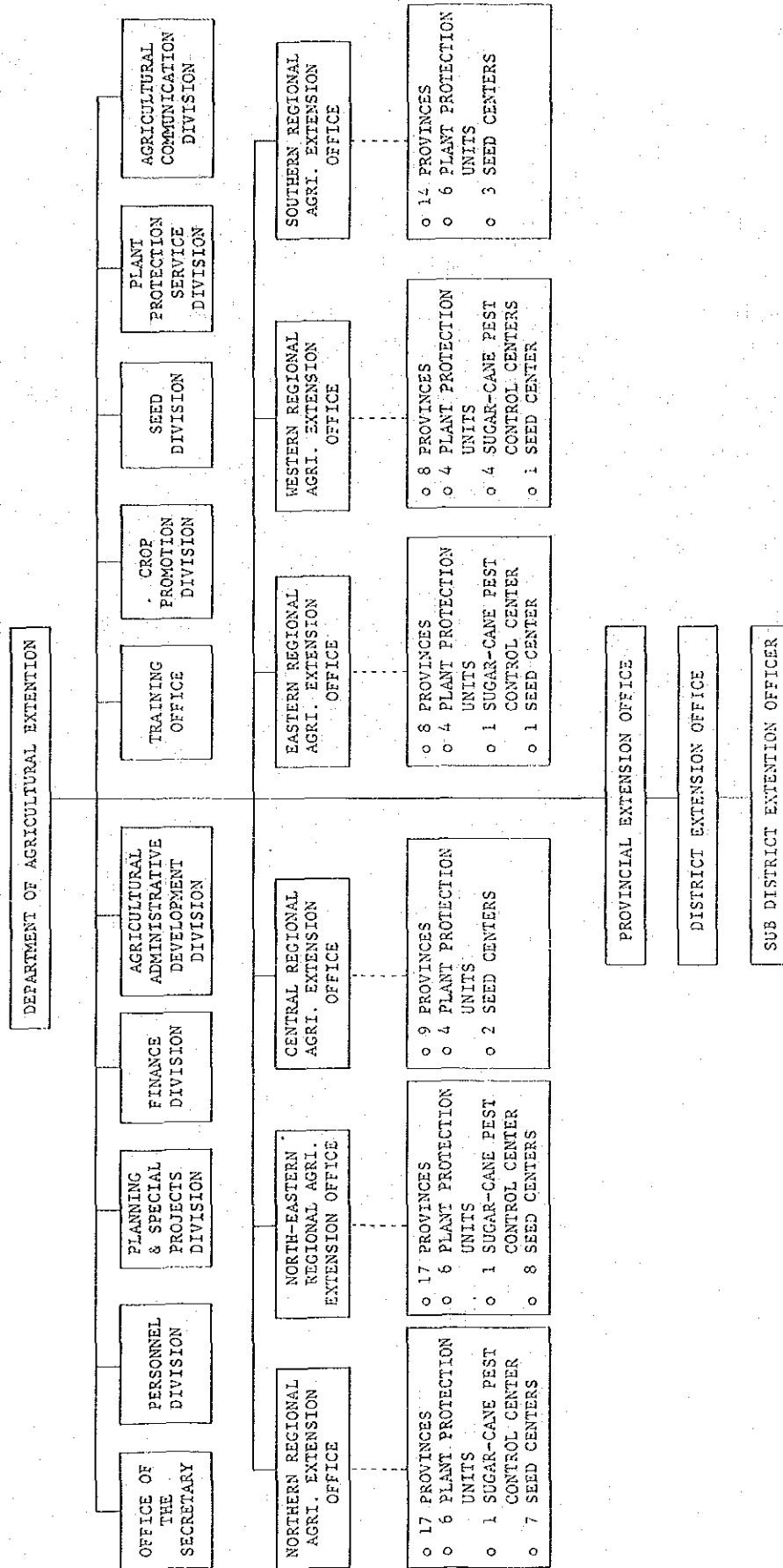
現在、普及活動に関する問題としては、

- ・農家とのコミュニケーションの強化
- ・試験研究機関との連携の強化
- ・普及計画および、総合・調整機能の強化
- ・訓練センターの充実

などがあげられ、目下、これの課題解決に取り組んでいる。



ORGANIZATION CHART  
DEPARTMENT OF AGRICULTURAL EXTENSION



ビルマ

(1) 一般事情

農業は最も重要な産業で、主食である米は自給も十分で、輸出商品になっている。このほかに、綿、砂糖キビ、麻などが大きな商品である。農産物の生産高は国民総生産額の60%を占めており、人口3,400万人の80%が農業に従事している。

農業が国の基幹産業であるだけに、国際競争力をつけていく上にも、良質・低コストの農業生産が重要であるが、そのためにも、いま問題となっているのは、

- ・異常気象による水問題
- ・農産物や肥料等農業資機材の運搬に必要な輸送手段の整備（適期防除等のためにも必要）
- ・農家の経済感覚の向上
- ・普及職員等、指導者の充実
- ・普及職員等の訓練施設の充実

があげられている。

こうした中で、試験研究機関では、異常気象下や病虫害にも耐えられる品種改良はじめ肥培管理の技術改善の研究を進めているほか、普及指導面では、タウンシップによる拠点指導や、各地域ごとの展示圃場の設置による指導をしている。

(2) 関係機関の現況

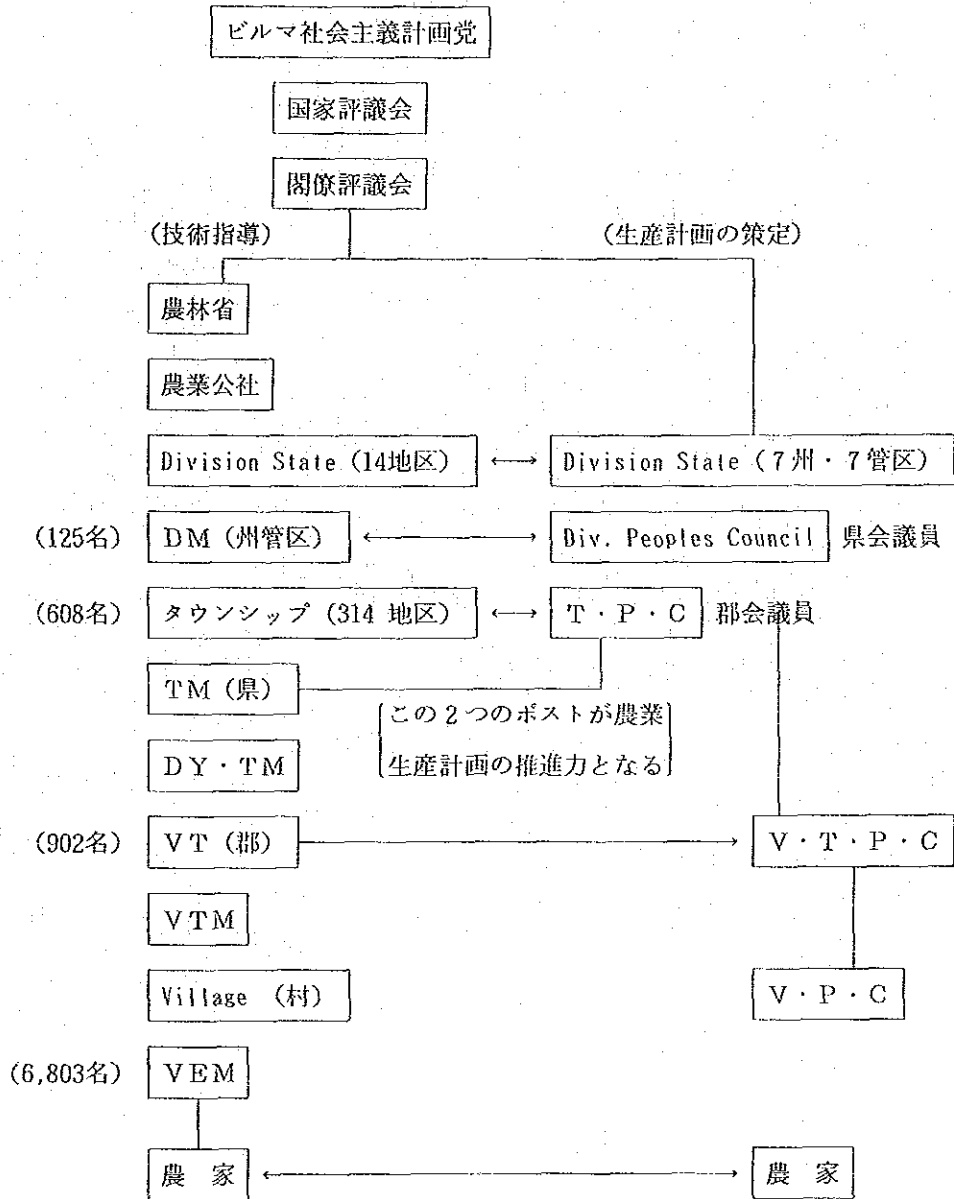
ビルマの普及事業は、1924年よりはじまっているが、1959年には農業公社と農村地域開発公社の2つの機関となり、これが1972年に「農業公社」となって1本化し、現在は別掲のとおり組織となり、生産計画の立案（行政）と技術指導（普及）とが関連している。

そして、「生産計画」は、7州・7管区の代表者（知事）と普及組織のD. M. A. Cの代表者、内閣の担当大臣との協議によって決められる。

また、地域に対する「生産計画」や「指示割当」「振興計画」の指示は主として（行政サイド）より出され、その計画に対する技術的な対応や生産指導には（普及）がたずさわる。

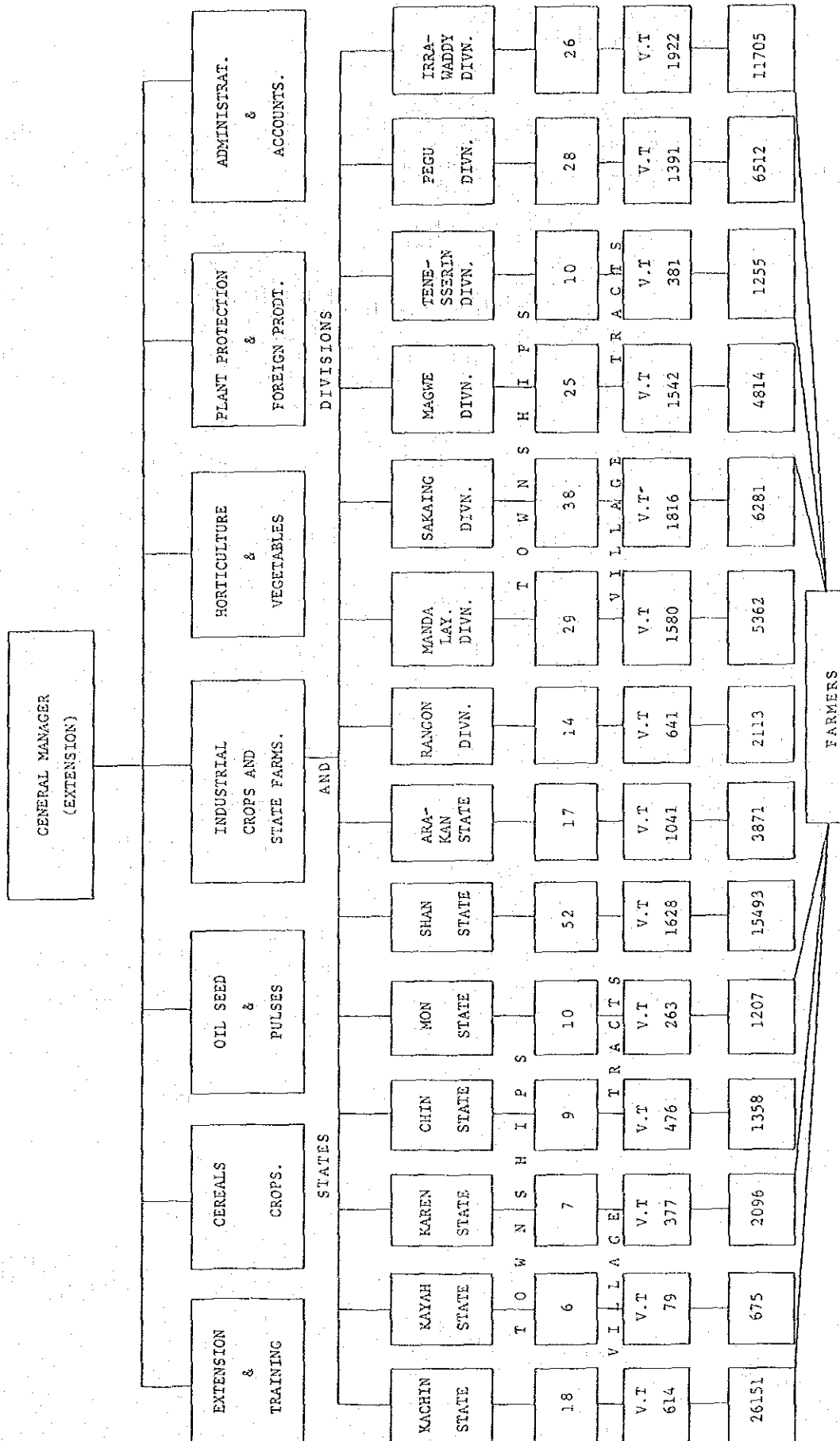
なお、この生産計画と技術指導との関連について、(TM)と(T. P. O)とが推進力を持っており、生産が計画どおりにすまない場合は、この2つのポスト（段階）において、それが普及（担当者）の責任なのか、計画の責任なのかを追求されることになる。

ビルマにおける農業行政・技術指導の組織図（1985年研修員カントリーレポート等より作成）



EXTENSION DIVISION

ORGANIZATIONAL CHART



スリ・ランカ

(1) 一般事情

スリ・ランカは農業国で、ココナッツ、茶、ゴム、米、ココア、コーヒー、コショウ……などを栽培し、茶、ココナッツ、ゴムは主力輸出商品で、外貨の60%をこれで得ている。しかし、近年、アジアおよびアフリカにおいても茶、ゴムなどの生産が伸びてきており、これら農産物も国際競争下にある。

したがって、農産物の生産も国際市場を勘案して、有利に輸出できる作物の選択とその振興がはかられることになる。

一方、森林地帯における農地造成が計画され、水利事業と共に森林地帯が開発されつつある。

(2) 関係機関の現況

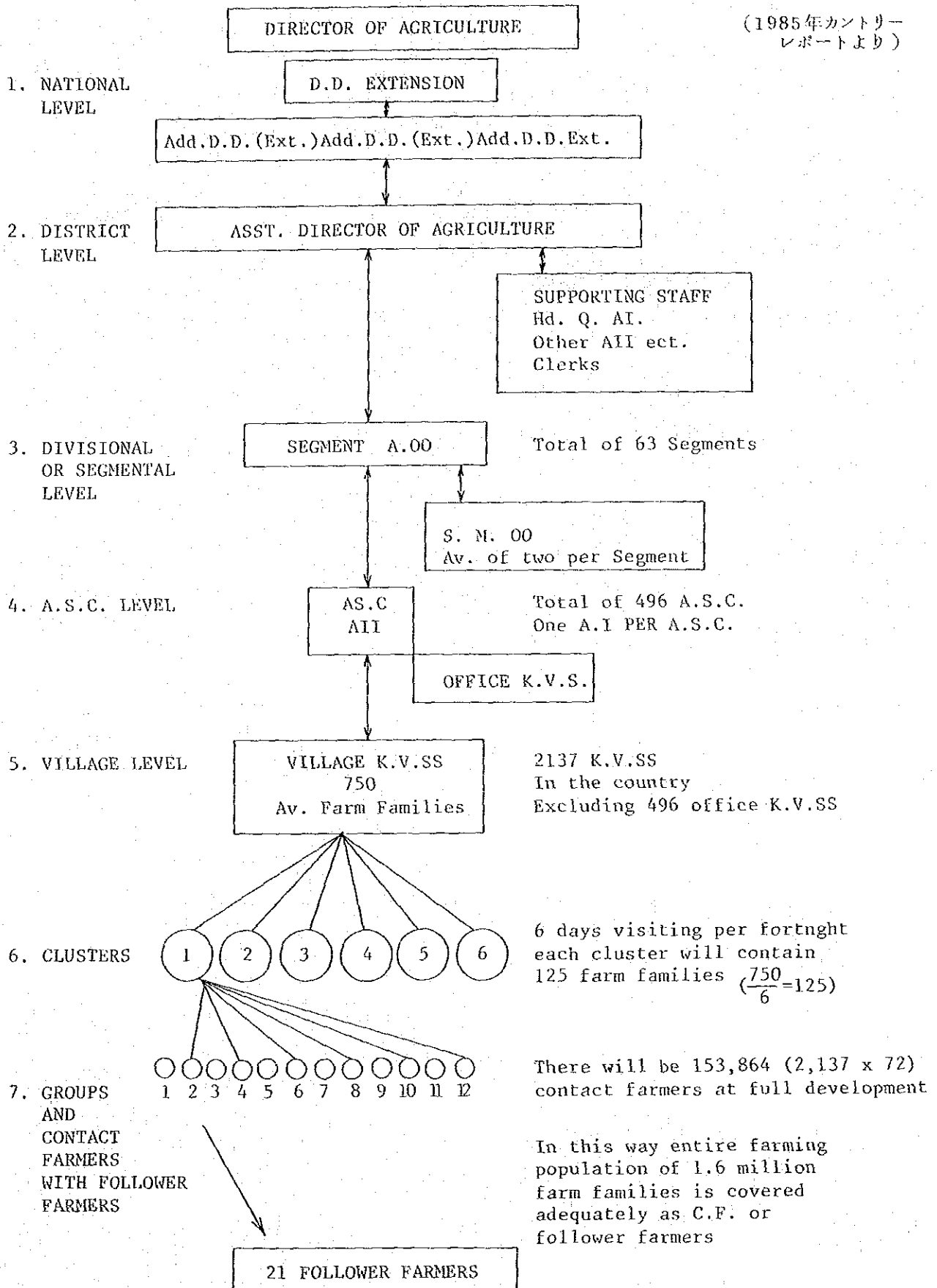
現在、5,000名の普及員と100名の専技が23地区で普及活動にたずさわっており、1人の普及員の主な仕事は農家の教育である。

普及の組織図は別掲のとおりであるが、普及職員は、それぞれ次の部署に配置されている。

1. Agricultural Instructors—Agricultural Department
2. Extension Officers—Department of Minor Department
3. Divisional Officers—Agricultural Services, Department (K·V·S)
4. Agricultural Extension—Agriculture Department Workers
5. Cultivation Officers

STRUCTURE OF EXTENSION ORGANIZATION

(1985年カントリー  
レポートより)



## 2. 帰国研修員の現況

( :は、日本における研修の結果がどのように役立っているかという、共通質問)

(タイ)

Pipat Kaewplung (Chief of Agri-Extension Sub Division)

種苗についての改良、普及活動に従事。日本における研修が役立っている。

:セミナー等での研修、日常の業務に役立っている。

Wibul Panyavansiri (Assistant Director of Vocational Education Ministry of Education)

農業研修施設での普及科目の教育を担当。

:セミナー等での研修、スタッフへの情報提供。

Boonchuen Wiyaporn (Deputy of Kasetchangwad Kanchaburi)

農業普及計画等の作成に従事。

:セミナー等での研修、スタッフへの情報提供、訓練センターでの教鞭。

Su-pa Disthaporn (Chief of Biological Control Sub Division of Ministry)

農村地域における防除技術(生物防除)の研究・普及に従事している。病虫害など自然災害の大量発生もみられる。

:セミナー等での研修、スタッフへの情報提供。

Siri Kirdintra (Director of C. D Kamphangphet Province)

村落の振興計画作成、普及計画、地域農業の振興事業、農家の指導等に従事。

:セミナー等での研修、スタッフへの情報提供、レポート等の作成。

Viraphong Chochunklin (Lampang Provincial C.D Officer)

農業経営、技術の普及活動に従事しているが、農業後継者、農業生産、農家所得の向上など、課題が多い。

:日常の業務に役立っている。セミナー等での研修。

Prawat Boonyakarnjana (Assistant Chief of Agri-Officer)

普及職員の研修に従事。日本での研修を生かしている。

:レポート等の作成、日常業務に役立っている。

Suwattana Pengpinit (Chief of Provincial Ext-Officer's Assistance)

普及職員に普及方法等の演習についての指導はかに従事しているが、普及所には、畜産、水産、土地開発、水利、共同組織等の資料が不足している。

:セミナー等での研修。

Somkid Teechapalokul (Agri-Technical Officer 4)

北部山間地帯のコメ、大豆、コーヒーなどの生産地域で、農家の教育、生産の振興に従事している。

:セミナー等での研修、スタッフへの情報提供、日常業務に役立っている。

Tawisak Saleesung (Agriculturist Level 5)

コメ、フルーツの生産向上に従事。農家への技術指導に努力している。

：スタッフへの情報提供，日常業務に役立っている。

Somchai Nithgorn (Agriculturist level 4)

小規模農家に対して指導を行い，かれらの生活の向上をすすめている。

：訓練センターでの指導，セミナー等での研修，スタッフへの情報提供。

Pholprasert Weera (A.M.S Planning and Special Projects Division)

普及所や普及員，農業生産組織等へ農業技術や普及情報等を提供している。

農業生産額の低さ，コスト高が問題になっている。

：セミナー等での研修，開発計画の作成。

Puangrat Rodmanee (C. d Officer Level 4)

1986年6月より Chulalongkorn University に在籍。

Somchai Meesang (Cooperative Technician)

農地の有効利用等について新技術の指導を行っているが，新しい技術を導入するときには，農家の理解を得るために困難なときもある。

：セミナー等での研修ほか。

Chukiat Ruksorn (Instrutor at NATC)

普及職員の研修や，農業後継者の教育に従事。

：訓練センターにおける講義，セミナー等での研修，スタッフへの情報提供。

Tassanai Eamsri (Land Reform Officer)

農家への技術指導，農業組織への対応，流通および生産の状況把握に従事。

：スタッフへの情報提供，日常業務に役立っている。

Supachai Kaewlumyai (Agronomist)

農民組織と共に土地，水利用計画により，コメの2期作等に取り組んでいる。

：訓練センター等での講義，セミナー等での研修。

Somporn Sangawongse(C. D Worker grade 4)

農業地域において，多くの農民を種々に組織化して指導に当たっている。

：スタッフへの情報提供。

Suchari Nalampoon (S.M.S)

普及職員等への指導。

：セミナー等での研修。スタッフへの情報提供，日常業務に役立っている。

Niwat Martwana (Training Officer)

普及方法等演習について，普及職員を指導している。

：セミナー等での研修。



(ビルマ)

U Tun Yee (Deputy Assistant of General Manager)

野菜栽培についての指導および普及職員への普及方法等の指導に従事しているが、園芸、畜産の技術資料が不足している。

：セミナー等での研修，スタッフへの情報提供，日常業務に役立っている。

U Khin Maung Aye (Deputy General Manager)

タウンシップマネージャーにたいし、稲作についての技術指導をしている。専門技術員が不足しているが、タウンシップマネージャーとのコンタクトの回数をふやすことによって補っている。

：訓練センターでの講義，スタッフへの情報提供。

U Miya Thwin (Deputy Assistant of General Manager)

作物の栽培指導等に従事。

U Khin Maung Kyi (Village Tract Extension Manager)

タウンシップマネージャーおよびヴィレッジ普及員への指導をしている。

：スタッフへの情報提供，ほか。

U Thein Pe (Deputy Assistant of General Manager)

種苗選抜等についての指導，普及職員の訓練等に従事。

：訓練センターでの講義，報告書等の作成，日常の業務に役立っている。

(スリ・ランカ)

E. S. Gunatilaka (Senior Consultant)

地域振興および教育事業に従事している。

：訓練センターでの講義，セミナー等での研修，報告書の作成，スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

Arulambalam Karthigesu (Plant Quarantine Officer)

良品質生産への指導，および成人教育に従事している。

：スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

K. K. S. S. De Silva (Agricultural Officer)

普及職員および農業組織への技術の伝達に従事。

：セミナー等での研修，報告書の作成，日常の業務に役立っている。

Mohamad Uvais (Agricultural Officer)

地域普及職員への指導に従事している。

：訓練センターでの講義，セミナー等での研修，スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

Muthu Bandara Wijesundera (Agricultural Instructor)

地域普及職員および農家組織，農業青年組織の指導。そのほか，地域問題に対応。

：セミナー等での研修，スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

Piyasena Wanasinghe (Assistant Director of Agriculture)

地域普及職員の指導に従事している。指導員や資料が不足している。

：訓練センターでの講義，セミナー等での研修，報告書の作成，スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

W. B. Dissanayake (Assistant of Land—Commissioner)

土地開発部の職員の指導に従事している。ここでは，未利用地を開発し，農業生産を上げて，人々の雇傭の機会を増やそうとしている。

：セミナー等での研修。

Kithsiri Bowatte (Agricultural Instructor)

農地の有効利用等について（計画，指導等）従事。

：訓練センターでの講義，セミナー等での研修，スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

P. A. D. Jayawardena (Colonization Officer)

農地の有効利用と農家の経済向上に努力している。

：セミナー等での研修，日常の業務に役立っている。

W. K. K. Kumarasiri (Assistant Land—Commissioner)

農地開発と農地生産の振興に従事。

：セミナー等での研修，スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

M. Bogahawatta (Agricultural Officer)

地域普及職員の研修，普及計画の作成等に従事。

：セミナー等での研修，報告書の作成，スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

R. M. Nissanka (Minor Crops Extension Officer)

スパイスなどの特産作物の指導を農家にしているが，兼業農家がおおく，接触の機会をつくるのに苦労している。指導にあたっては，スライドやTVを使っている。

：訓練センターでの講義，セミナー等での研修，スタッフへの情報提供，日常の業務に役立っている。

### 3. 帰国研修員に対する調査結果

#### (1) Questionnaire の集計・分析結果

タイでは対象帰国研修員20名中，20名分を回収。ビルマでは8人中，5名分，スリ・ランカでは17名中，12名分を回収した。（回収率82%）

集計の結果は（別添）のとおりであるが，分析の結果は，大部分が「コースの内容は適正であった」と回答しており，また帰国後も「普及員等へのトレーニング」や「セミナーの開催」に役立ったと答えている。

## (2) 面接内容

- ①タイでは、農業共同組合省普及局ミーティンググループにおいて、帰国研修員1人ずつより、日本における研修の評価と、今後の本コースについての要望について聴取した。
- ②ビルマでは、農業公社研修室にて、同上のとおり聴取した。
- ③スリ・ランカでは、農業開発研究省普及局研修室（キャンデー市）および JICA スリ・ランカ事務所会議室にて、同上のとおり聴取を行った。

(注) 聴取の内容は、Questionnaire の内容と関連させているので、(別添)を参照のこと。

## (3) 日本での研修効果の測定

本コースの研修内容については、大部分が「適正だった」と回答しており、本コースのカリキュラムは、おおむね定着したと見られる。

## (4) 帰国研修員よりのコース改善に対する要望等

前述のとおり「適正」と回答しているが、以下のとおり、その他の要望が出ている。

- ・演習をもっとふやしてほしい。(全体の70%ぐらいに)
- ・もっと技術の研修をふやしてほしい。
- ・課題をしぼってほしい。
- ・もっと期間を長くしてほしい。

Questionnaire の集計・分析結果 (抜粋)

No	研修の成果は何に役立っているか	研修の内容 (期間, 水準, 科目)	とくに関心のあった科目	本コースに関する意見
1	(タイ) 1. 学校やセンターでの講義に ② トレーニングコースやセミナーに 3. 技術解説や報告書作成 4. スタッフ等への情報提供 ⑤ 仕事の研鑽 6. その他 (以下, 該当する番号のみ)	いずれも適切	青少年の育成 農協のシステム	満足
2	① ② ④	"	普及のプロジェクトプログラム " ガイダンス "	-
3	① ② ④	(期間) (科目) は適切 (水準) は少し高い		-
4	① ④	いずれも適切	普及方法, 防除	-
5	② ③ ④ ⑤	"	青少年教育, 普及計画	-
6	② ⑤	"	生活改善, 青少年育成	研修の70%はフィールド研修がよい
7	③ ⑤	-	作型, 園芸	普及所での実習が必要
8	②	いずれも適切	普及方法, 農業経営指導	-
9	② ④ ⑤	"	農協, 普及メディア	
10	④ ⑥	"	視察, 農家留学	視察および演習, 技術の講習
11	① ② ④	"	普及活動, 農家留学	研修のレフレッシュが必要
12	②	"	流通・農家留学	
13	-	"	農協, 日本人のくらし	よい研修プログラムだった
14	② ⑥	(水準) (科目) は適切 (期間) は非常に短い	農業経営, 視察	野外研修をもっと多く
15	① ② ④	(期間) は少し長い, (水準) (科目) はやや低い	農協システム, 青少年育成 普及所の情報システム	普及技術をさらに充実させる
16	① ③ ⑥	いずれも適切	流通, 転作	-
17	① ②	(期間) は適切, (水準) (科目) はやや低い		-
18	④	いずれも適切	普及方法, 農家留学	普及活動の実際をもっと知りたい
19	② ④ ⑤	(期間) は適切, (水準) はや や低い, (科目) は高次	農協システム 農協情報	-
20	②	(期間) (科目) は適切 (水準) はかなり低い	日本農業, 日本の普及	-

No	研修の成果は何に役立っているか	研修の内容(期間,水準,科目)	とくに関心のあった科目	本コースに関する意見
	(ビルマ)			
1	② ④ ⑤	(期間)(科目)は適切	演習, 普及方法	日本語の習得できれば研修は効率的
2	① ④	-	青少年育成, 転作	
3	-	-	" 農協	
4	④ ⑥	いずれも適切	演習, 普及方法	
5	① ③ ⑤	(水準)(科目)は適切 (期間)はやや長い	普及事業と試験研究 農家留学	普及員との交流 気象問題もやってほしい
	(スリ・ランカ)			
1	① ② ③ ④ ⑤	いずれも適切	青少年育成, 普及活動	野外研修が必要
2	④ ⑤ ⑥	"	演習, 視聴覚研修	農家との交流
3	② ③ ⑤	(水準)(科目)は適切 (期間)は非常に短い	普及組織 普及活動	日本語の習得が必要
4	① ② ④ ⑤	(水準)(科目)は適切 (期間)はやや短い	普及活動 流通システム	期間をもっと長くしてほしい 普及所, 農家訪問をさらにふやす
5	② ④ ⑤ ⑥	いずれも適切	農家組織 青少年育成	日本語の習得が必要
6	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	(水準)(科目)は適切 (期間)はかなり短い	普及方法 試験研究との連けい	もっと研修期間をのばしてほしい(6カ 月ぐらいに)
7	②	いずれも適切	農民組織, 野外研修	野外研修を組入れてほしい
8	① ② ④ ⑤	"	青少年育成	-
9	② ⑤	(水準)(科目)は適切 (期間)は非常に短い		-
10	② ④ ⑤	いずれも適切	農民組織	-
11	② ③ ④ ⑤ ⑥	(水準)(科目)は適切 (期間)は非常に短い	普及方法 プログラミング	研修期間を6カ月にしてほしい
12	① ② ④ ⑤	いずれも適切	研修計画, 展示圃	野外研修をふやしてほしい
37名 (回収率82%)	① 13 ② 27(トレーニングやセミナー) ③ 7 ④ 23(スタッフ等への情報) ⑤ 21(仕事への研鑽) ⑥ 7	(期間) 適切25, 短い6, 長い2 (水準) 適切27, 低い4, 高い1 (科目) 適切30, 低い2, 高い1	普及方法 青少年育成 農協システム 流通 に 関 心 が 高 い	期間の延長を求めるコメント 野外研修が多い

#### 4. 当該国における研修員の応募・選考・派遣状況

タイ、ビルマ、スリ・ランカとも、本コースでの研修を希望している者が多いが、当該国内における上司ならびに上部機関での推薦・選考の結果、現場普及員を訓練するポストにある中堅普及員が派遣されている。とくにタイでは英語のテストの合格が前提になっている。

#### 5. 研修コースの問題点および改善への提言

“普及”は農業だけではなく、あらゆる分野においてその「ソフト的機能」は重要な役割を持つ。しかし、現状では、“普及”の基本理念としての“教育的要素”よりも、“政策的推進”の要素が評価され、普及が行政推進機関としての役割を担っている場合が多く、今回の訪問国においても例外ではなく、むしろ、発展途上国では「農業政策の技術的推進機能」として高く評価されている。

こうした現状をふまえて農業普及コースを見、対象国の要望に応じていくため、フォローアップチームでは、以下の提言を行いたい。

- ① 派遣国関係各機関では、研修員の帰国後の活動を高く評価し、本コースに対する期待も多く、今後とも本コースの拡充を求めているので、この期待に応える必要がある。
- ② 「普及の理念」については、つねに一貫して強調されねばならない。さもないと、ソフト機能のみが重用されて、普及の基本が空洞化するおそれがある。
- ③ 現在、訪問国では、農村の現場指導者の訓練において、帰国研修員の多くはこの任に当たっており、「普及計画」「普及方法」…等の演習に関する教材を求めている。  
本コースでは、この「演習」に多くの時間をさいているが、これらの研修の成果が、帰国研修員を通じて、広く活用されることを望む。
- ④ 一方、本コースの研修員も帰国後10年以上を経ている者もあるので、これら帰国研修員にも定期的に新しい教材（資料）を送付する必要を認める。
- ⑤ 発展途上国の今日的な課題を考えると、「栽培技術」「国際マーケティング」などの要素を加味する。
- ⑥ リフレッシュコースおよびアフターケアを求める声が多い。もし、これが不可能ならば、それに応える他の対応について考慮してほしい。

### Ⅲ 技術指導内容

#### 1. 実施状況

##### (1) タイ

10月29日、農業共同組合省普及局ミーティングルームにて。帰国研修員20名中18名(出席率90%)、普及局関係者2名、他コースの帰国研修員(サトウキビコース)3名。

##### (2) ビルマ

11月4日、農業公社研修室にて。対象8名中7名参加(出席率88%)ほか農業公社関係者1名。

##### (3) スリ・ランカ

1) 11月11日。農業開発研究省農業局研修室(キャンディ市)にて。帰国研修員5名、ほか関係者。

2) 11月12日。JICA スリ・ランカ事務所会議室にて。帰国研修員7名、ほか関係者。

(注) 対象帰国研修員17名中12名(出席率71%)

##### (4) 参加国合計

対象帰国研修員45名中37名(出席率82%)

#### 2. 実施内容

##### (1) 講師

加藤政信(チームリーダー)

磯野定夫

##### (2) 講義内容

「面接法」「ポスターの作り方と利用法」

##### (3) 使用テキスト

1) Outline of Agricultural Extension Service in Japan

2) Agricultural Extension Method

##### (4) カラースライド

「面接法」(50枚)

「ポスターの作り方と利用法」(50枚)

#### 3. 参加者との質疑応答内容(要約)

参加者は、今回講義をした「演習」について大きな関心を示し、さらに、「展示圃」「討議法」などについて、そうした研修および教材がほしい、との要望が出た。一方、講師側からは、参加者から講義に関する理解度をたしかめつつ、現在の普及活動の状況を聴取して、今後のカリキュラム作成への参考とした。

## Ⅳ 添 付 資 料

### 1. 当該コースの概要

#### (1) コースの開設年及び開設の経緯

昭和36年、本コースは、我が国の技術協力計画の一環として日本国政府によって設けられ、我が国の農業普及事業に関する基礎理論、手法を説明し、その背景にある諸問題を紹介することにより、研修参加者に各国の農業普及に関する事業に有用な、あるいは参考となる内容を研修せしめ、ひいては各国の普及事業の発展に寄与することを目的とする。

#### 1) コースの背景

農業開発を進めるうえで農業普及の果たす役割は極めて大きい。一般に開発途上国においては普及事業が制度的にも内容的にも未発達段階にあり、農業普及関係の指導者が質量ともに低水準にある。本コース実施の背景はこのような状況を改善するための人材を養成する。

#### 2) 到達目標

- ① 我が国普及事業及びその背景並びにその過程から整理された基礎理論を理解する。
- ② 研修員各国の普及事業の現状に即した普及手段・方法、農業技術等について具体的な手がかりを得る。
- ③ 特に普及計画、普及活動の手段・方法に関しては、理論・実践両面から体得させ、自ら普及活動について企画立案しうる能力を養う。

#### 3) 研修項目・研修方法

##### ① 研修項目

##### イ. 普及活動の背景

日本の農業

(日本農業の概要、農政、農村社会、農業経営、農地改革等)

普及活動関連事業の概要

(試験研究、農業共同組合等)

日本の教育制度

アグリビジネス

(種苗会社、農薬肥料会社等)

##### ロ. 普及事業の概要

明治維新以降の農業指導の歴史

国レベルの普及事業及び国県共同農業普及事業体系

県レベルの普及事業

(農業改良普及所及び普及員、専門技術員)

農村青少年の育成



- 生活改善事業
  - 普及職員の養成と研修
  - 普及事業におけるインフォーマル組織
- ハ. 農業普及方法（理論の要約とその応用）
  - 普及活動のすすめ方
  - 普及手段とその利用法
  - 普及活動の手段
    - （面接法，討議法，演示法，その他）
  - 農民組織の育成
  - 普及計画
  - 普及情報活動
- ニ. 普及活動の実際
  - 改良普及員，専門技術員の活動現場
- ホ. 日本の農家
  - （農家宿泊を伴う体験学習）
- ヘ. カントリーレポート
  - （研修員出身国相互の普及事業の現状と問題点に関する意見交換）

## ② 研修方法

- イ. 講義……テキストを準備し，できるだけ視聴覚教材の導入を行うようにし，研修生の理解度を高めるように工夫する。
- ロ. 演習……①面接法，②スライドの利用法，③討議法，④演示法，⑤情報提供及び管理，⑥指導案作成，⑦普及計画の作り方などの演習を実施し，実技演習を通して普及指導手法の理解に努める。また，演習作品の互評も実施する。
- ハ. 視察……①第1回目は，県の農業大学校，試験場，普及所，農協，その他関連機関，農家を実際に観察させ，農村，農業に関する大まかな予備知識を持たせる。これは日本の普及事業の背景を学ぶ上での参考とするのがねらいである。
  - ②第2回目は，農家宿泊研修を行う。これは日本の農業，農家の生活の実態や農作業を体験させることによって，日本の農業，農家生活への理解を深めさせようというねらいである。
  - ③第3回目は，普及活動のすすめ方の具体例を改良普及員，所長，専門技術員の各レベル別に，その普及活動の現場に即して研修する。
  - ④その他，都内の視察では，国レベルでの生活改良普及員の研修とその施設の実際，農村向け広報機関の実際と内容等を見る。
- ニ. カントリーレポート……各研修員によるカントリーレポートの発表を通し，それぞれの国家に

における普及事業の現状と問題点を把握する。お互いの意見交換を通じ、自国の問題解決のための方法を考慮させようというねらいである。

- ③ 個人別訓練ニーズの把握とその対応……オリエンテーション時およびいつでも個人別にヒアリングを行い、個人別の訓練ニーズを把握しておき、集団研修の実施に際して、個人別のニーズに対しても可能な限り対応する。

#### 4) 研修実施体制及び運営

本件研修コースは、農林水産省農蚕園芸局普及教育課と国際協力事業団との協力により実施する。研修の運営管理については、社団法人 全国農業改良普及協会が行う。

本件研修コースには、コースリーダーを置く。コースリーダーには全国農業改良普及協会職員をもってあてる。

(2) 昭和61年度研修プログラム

月日	曜	時間帯	研修区		研修項目	研修場所	研修方法	講師氏名	ねら	い
			研修区	研修課題						
5月6日	火	午後	オリエンテーション			農林水産省			一般オリエンテーションの他に研修生個人別にヒヤリングを行い、個人別の訓練ニーズを把握する。	
7日	水	終日	イ. 普及活動の背景	日本の農業		"	講義	増井和夫	日本農業の概要についての知識を与える。	
8日	木	終日	イ. 普及活動の背景	日本の農家と農村社会		"	講義	川俣茂	日本の農家の生活・経営・農村社会の仕組み等についての知識を与える。	
9日	金	終日	ロ. 普及事業の概要	日本における農民指導の歴史		"	講義	抗原俊二郎	近代日本の農民指導の歴史をたどる。	
10日	土									
11日	日									
12日	月	終日	ロ. 普及事業の概要	日本の普及事業と普及組織		農林水産省	講義	木村一栄	日本の普及事業の概要と普及組織についての知識を与え、爾後の「普及方法」(講義と演習)の理解をたずける。	
13日	火	終日	イ. 普及活動の背景	日本の農業協同組合		"	講義	布施孝人	日本の農協の歴史と現状についての知識を与える。	
14日	水	終日	イ. 普及活動の背景	試験研究制度と普及事業		"	講義	猪股敏郎	わが国における試験研究制度を紹介し、普及事業とのかかわりについての知識を与える。	
15日	木	午前 午後	イ. 普及活動の背景 イ. 普及活動の背景	日本の農地改革 農畜産物の流通		"	講義 講義	古江睦明 清野栄司	日本の農地改革の経緯を紹介し、農地改革が日本農業の発展にどのような役割を果たしたかを理解させる。 農畜産物流通の仕組みを紹介し、農業経営にとって市場対応が重要であることを理解させる。	
16日	金	終日	イ. 普及活動の背景	日本の教育制度		"	講義	千野陽一	普及事業の基礎にある日本の教育制度についての知識を与える。	
17日	土									
18日	日									
19日	月	終日	イ. 普及活動の背景 ロ. 普及事業の概要	千葉県農業と普及事業		千葉県庁	現地研修		千葉県の農業の概要と普及事業の組織と活動について知識を与える。	

月日	曜日	時間帯	研修項目		研修場所	研修方法	講師氏名	ねらい
			研修区分	研修課題				
5月20日	火	終日	1. 普及活動の背景 2. 普及事業の概要	農業改良普及所, 農業試験場, 市町村役場, 農協, 農家の視察	千葉県下	現地研修	農家・農家と普及所をはじめ関係機関・団体等を観察し普及事業がどのような環境の中でどのような特徴をもって機能しているかを把握させる。	
21日	水							
22日	木							
23日	金	終日		ミーティング	農林水産省		第1回研修旅行の反省と整理	
24日	土							
25日	日							
26日	月	終日	ハ. 農業普及方法	普及活動のすすめ方	"	講義 演習	内田 宏	効果的な普及手段のカギは農業生産現場にあることを理解し、普及活動のすすめ方のポイントを把握させる。
27日	火	終日	"	普及手段とその利用法	"	"	"	現在使われている普及手段について、普及の発展過程と活用する手段の組み合わせを話し、理解を深める。
28日	水	終日	"	面接法	"	"	"	面接活動は、すべての普及活動の基本であることを説明し、面接の実験を体験させる。
29日	木	午前	"	演示法	"	"	加藤政信	やって見せることが、行動への動因として効果の高いことを理解させる。
		午後	"	展示会場	"	"	"	農業新技術や改善技術の成果を、農民の現場で実証することの意義を理解させ、実施方法を考えさせる。
30日	金	終日	"	ポスター	"	"	"	興味をわかせたり、参加意欲を起させる方法としてポスターの効果を考え実際に体験させる。
31日	土							
6月1日	日							
2日	月	終日	"	討議法	"	"	内田 宏	討議は問題解決のために有効な手段であることを認識させ、討議指導の方法を体験により理解させる。
3日	火	終日	"	リーフレット, パンフレット	"	"	"	必要とする情報をタイムリーに提供できる印刷物の効果を理解させ、印刷物作製の実技を経験させる。

月日	曜日	時間帯	研修項目		研修場所	研修方法	講師氏名	ねらみ
			研修区分	研修課題				
6月4日	水	終日	ハ、農業普及方法	視聴覚教材及び機器	農林水産省	講義 演習	内田 宏	普及活動における視聴覚手段活用の有効性を理解させ、機器の利用法を演習で体験させる。
6月5日	木	終日	"	"	"	"	小菅喜久弥	農作物病害虫標本の意味と有効性を理解させ、作り方の手ほどきをする。
6月6日	金	終日		標本の作り方	"	"	"	
6月7日	土							
6月8日	日							
6月9日	月	午前	"	コンテスト	"	"	内田 宏	多くのものを比較して見ることによって観察力を養い、生涯への自信や向上心が高まることを理解させる。
		午後	"	放送・新聞等への情報提供	"	"	"	普及事業の活動状況をマスコミにタイムリーに提供する必要性を理解させ、その方法を体験させる。
6月10日	火	終日	イ、普及活動の背景 ロ、普及事業の概要	茨城県の農業と普及事業	茨城県庁	現地研修		茨城県の農業の概要と普及事業の組織と活動について知識を与える。
6月11日	水	終日	ホ、日本の農家	農家宿泊	茨城県下	"		農家に分宿し、農家生活、農作業を体験させ、日本農業への理解を深め、自国農業を客観的に考察する機会を与える。この間隣村の人々との交歓を行う。
6月12日	木	"	"	"	"	"		
6月13日	金	"	"	"	"	"		
6月14日	土							
6月15日	日							
6月16日	月		ミーティング		農林水産省			第2回研修旅行の評価と整理
6月17日	火	終日	ハ、農業普及方法	普及計画	農林水産省	講義 演習	内田 宏	普及計画の必要性を認識させるとともに、計画作成の基本知識を深めさせる。
6月18日	水	"	"	"	"	"	"	
6月19日	木	"	"	先進地研修	"	"	加藤成一	先進事例を視察研修することの意義と効果を認識させ、演習で実施計画を作らせる。
6月20日	金	終日	"	農民組織の育成	"	"	井上弘治	農民組織が農業生産に寄与する諸点を理解させ、農民組織の理論と育成方法を習得する。

月日	曜日	時間帯	研修区目		研修場所	研修方法	講師氏名	ねらい
			研修区分	研修課題				
6月21日	土							
22日	日							
23日	月	終日	ロ、普及事業の概要	改良普及員の研修	農林水産省	講演	相合和夫	改良普及員の研修を効果的、体系的に実施するため、その構成要素について認識を深め、体系的研修が仕組めるようにする。
24日	火	終日	ハ、カントリー・レポート	カントリー・レポートの発表と討議	"			研修員各国の普及事業について紹介し、その現状と問題点を討議する。
25日	水	"	"	"	"			
26日	木	"	"	"	"			
27日	金	"	"	"	"			
28日	土							
29日	日							
30日	月		(移動)		長野県下			
7月1日	火	終日	ニ、普及活動の実際	改良普及員の現地活動	"	現地研修		①普及員と行動を共にして現地での普及活動を観察させ、ねらい、経過、効果等を把握させる。
2日	水	"	"	"	"	"		②専門技術員と行動を共にして専技活動を観察させ、普及員に対する指導のねらい、経過、効果等を把握させる。
3日	木	"	"	専門技術員の活動	"	"		
4日	金	"	"	改良普及員の連携活動	"	"		市町村、農協、試験場等との連携活動のようを観察させ、普及活動の展開に当って関係機関、団体等との協力がいかにかに大事かを理解させる。
5日	土							

月日	曜日	時間帯	研究項目		研修場所	研修方法	講師氏名	ねら	い
			研修区分	研修課題					
7月6日									
7月7日	月	終日	イ. 普及活動の背景	種苗会社研究農場, 農薬会社研究所, 農機具工場等の視察	大阪・京都府下	現地研修		農業生産資材の開発・生産がどのように行われているかを観察させ, 農業や普及事業への生産資材の寄与を理解させる。	
7月8日	火	"							
7月9日	水								
7月10日	木		(移動)						
7月11日	金	終日		ミーティング	農林水産省			研修旅行の評価と整理	
7月12日	土								
7月13日	日								
7月14日	月	終日	ロ. 普及事業の概要	農村青少年の育成	農林水産省	講義	十河 稔	農村青少年育成の進め方を紹介し, その重要性を理解させる。	
7月15日	火	終日	"	生活改善普及事業	"	"	今城裕子	生活改善普及事業の概要を知らせ, 併せて生活改善技術研修を見学する。	
7月16日	水	終日	ハ. 農業普及方法	共同討議・効果的普及手段を考へる。	"	共同討議	内田 宏 ほか	各国普及事業における普及手段のもっとも効果的な利用について共同討議を通して追究する。	
7月17日	木	終日	イ. 普及活動の背景	日本農業の特徴と各国農業を比較する。	"	共同討議	武藤和夫 ほか	日本の農業の特徴と課題を整理しながら, 研修参加国の農業の問題点について比較考察する。	
7月18日	金	終日	イ. 普及活動の背景	生産資材の開発と流通	"	講義	岡 昌二	種子, 種苗, 農薬, 肥料等の開発と流通の仕組みを紹介し, 農業の発展, 普及活動の展開にとって重要なファクターとなっていることを理解させる。	
7月19日	土								
7月20日	日								
7月21日	月			ミーティング					
7月22日	火	終日	イ. 普及活動の背景	マスメディアと農業	NHK, 豚の光	見学		農業分野でのマスメディアの役割を知らせ, 普及事業の補助的手段としての効用を理解させる。	

月日	曜日	時間帯	研修項目		研修場所	研修方法	講師氏名	ねらい
			研修区分	研修課題				
7月23日	水	終日	普及事業の概要	普及事業とインフオーマール組織	全国農業改良普及協会	講義	星 敏治	普及事業のインフオーマール組織を紹介し、これらがいかに普及事業を支え、普及活動の推進に貢献しているかを知らせる。
24日	木	終日		エバリエーション	農林水産省			コースのカリキュラム、内容、講師及び個人別の訓練メニューとその達成度についてのエバリエーションを行い、次年度以降のコースの設定、運営等についての参考資料を得る。
25日	金	午後	閉講式		〃			





(4) コース終了時のエバリュエーション集計結果（昭和61年度実施報告より）

(1) 評価事項

- ア 日本の普及事業とその背景についての理解度
- イ 普及活動の基礎的理論と具体的な方法論についての理解度
- ウ 自国の問題に関連しての解決策の考察度

(2) 調査方法

- ア エバリュエーション・ミーティング（1回）
- イ ミーティング発表時における意見
- ウ 平素の研修態度と意見・質問の内容
- エ ファイナルレポート

(3) 調査結果のまとめ

日本の普及事業 とその背景			普及活動の基礎的理論			自国の問題に関 連しての解決策			総括（左の3項を 通じて）		
理 解 しない	や や した	し た	理 解 しない	や や した	し た	おとる	普 通	良	目標に 至らず	も う 一 歩	到 達 した
		○			○			○			○
		○			○			○			○
	○			○			○			○	
		○			○			○			○
	○			○			○			○	
		○			○			○			○
		○			○			○			○
		○			○			○			○
		○			○			○			○
	○			○			○			○	
		○			○			○			○
		○			○			○			○
		○			○			○			○
0	3	11	0	3	11	0	3	11	0	3	11

2. 当該国帰国研修員リスト  
(タイ)

No	氏名	年齢 (参加時)	現職	所属先	参加年度
①	Mr. Pipat Kaewplung	30	Chief of Seed Multiplication Sub-Division Ministry of Agriculture	Dept. of Agricultural Extension Bangkok, Thailand	1971
②	Mr. Wibul Panyavansiri	31	Assistant Director of Vocational Education	Dept. of Vocational Education, Ministry of Education, Bangkok, Thailand	1972
③	Mr. Boonchuen Wiyaporn	26	Deputy Director of Kasetchangwad Kanchanaburi	Dept. of Agricultural Extension Bangkokhaen, Bangkok, Thailand	1975
④	Mrs. Su-Apa Disthatorn	35	Chief of Biological Control Sub-Division	Dept. of Agricultural Extension, Ministry of Agriculture and Co-operation, Bangkok, Thailand	1976
⑤	Mr. Siri Kirdintra	34	Director of CD Office, Kamphangphet Province	Community Development Department Bangkok 2, Thailand	1977
⑥	Mr. Viraphong Choochunklin	37	Lampang Provincial CD Officer	Ministry of Interior, Bangkok, Thailand	1977
⑦	Mr. Prawat Boonyakarnjana	37	Assistant Chief of Agri-Officer of Smutsakorn Province, Dept of Agricultural Ext.	Agricultural Extension Office in Smutsakorn Province, Bangkok, Thailand	1978
⑧	Mrs. Suwattana Pengpinit	40	Chief of Provincial Extension Officer's Assistance of Agricultural Extension, Ministry of Agriculture & Cooperatives	Department of Agricultural Extension Min. of Agri. & Coop.	1979
⑨	Mr. Somkid Teechepalokul	26	Agri Technical Officer 5 of D.V. Ministry of Interior	Dept. of Public Welfare Sapaarn Kao, Bangkok, Thailand	1980
⑩	Mr. Tawisak Saleesung	30	Level 6. Agriculturist, Department of Public Welfare, Land Settlement	Ubolratana Land Settlement, P.O. Box 15, Khonkaen Province, Thailand	1981

12	Mr. Somchai Nithagorn	35	Agriculturist Level 5, Pimai Self-help Land Settlement, L.S. Div.	Pimai Land Settlement Pimai, Nakhon-ratchasima Province, 30110, Thailand	1982
13	Mr. Pholprasert Weera	31	Subject Matter Specialist 5, Crop Promotion Div., Dep. of Agri. Extension	Dept. of Agricultural Extension Paholyothin Rd. Bangken Bangkok	1982
14	Mr. Puangrat Rodmanee	31	Community Development Officer, Level 5, Operation Division, Comm. Develop. Dep.	Community Development Department, Ministry of Interior Bangkok 10200	1983
15	Mr. Somchai Meesang	29	Cooperative Technician, Land Settlement Cooperative Division, Department of Cooperative	Land Settlement Cooperative, Division Dept. of Cooperatives Promotion, Theves, Bangkok 10200	1983
16	Mr. Chukiat Ruksorn	28	Instructor, Extension & Training Div., Extension & Training Center Kasetsart University	Extension & Training Center Kasetsart University Bangkok, Bangkok	1983
18	Mr. Tassanai Eamsri	34	Land Reform Officer of Agricultural Land Reform Office	Agricultural Land Reform Office, Chiangmai 50000	1984
17	Mr. Supachai Kaewlumyai	28	Agronomist, Operation and Maintenance Div., Royal Irrigated Dept.	Royal Irrigated Dept. Samsen Road Dusit District Bangkok, Thailand	1984
19	Ms. Somporn Sangawongse	32	Fourth Grade Community Development Worker, Community Development Office	Community Development Office, Sankamphaeng District Ching Mai 50180	1985
19	Mr. Suchart Nalampoorn	34	Subject Matter Specialist, Dept. of Agri. Extension, Min. of Agr. & Coop.	Provincial Agr-Extension Office, Dept. of Agri-Extension, Ministry of Agriculture	1985
20	Mr. Niwat Martwanna	31	Training Officer, Dept. of Agri-Extension, Ministry of Agri. & Coop.	2143/1 Phaholyothin Road, Bangkok, Thailand	1986

印刷済回収

印刷済者

## (ビルマ)

No.	氏名	年令 （年齢）	現職	所属	参加年度
①	U Tun Yee	39	Deputy Asst. General Manager, Agricultural Corporation	Ministry of Agriculture and Forest, Agriculture Corporation, Rangoon, Burma	1978
②	U Khin Maung Aye	49	Deputy, General Manager of Agricultural Corporation	- " -	1979
③	U Mya Thwin	41	Deputy Asst. General Manager of Agricultural Corporation	- " -	1981
④	U Aung Than	38	Deputy Township Manager, Agricultural Cooperation, Ministry of Agri. & Forests	- " -	1982
⑤	U Khin Maung Kyi	38	Village Tract Extension Manager, Agricultural Cooperation, Ministry of Agri. & Forests	- " -	1983
⑥	U Thein Pe (San)	49	Deputy Asst. General Manager, Agri- cultural Corporation, Ministry of Agriculture & Forests	- " -	1984
7	U Ba Soe	42	Township Manager Agricorp Thazi, Agriculture Corporation, Ministry of Agriculture & Forests	- " -	1984
⑧	U Kyaw Tint	35	Junior Deputy Asst. General Manager, Agri. Corporation, Ministry of Agri. & Forests	- " -	1985

○ 質問状回収

□ 印刷者

(スリ・ランカ)

No.	氏名	年齢 Age	現職	職	所	参加年度
1	Mr. Baresf. Sepala Gunasilaka		Senior Consultant, Sri Lanka Institute of Development Administration		281/10 Longdon Place, Colombo-7	1972
2	Mr. K. Asoka Wijewansa		Asst. Advisory Officer, Rubber Research Institute			1973
3	Mr. Arulambalam Karthigesu	42	Plant Quarantine Officer, Agricultural Office		Dept. of Agriculture Peradeniya, Sri Lanka	1974
4	Mr. Isaac, Veliopillai Kirubanayagam	46	Instructor, Ampara Dist., Agri. Ext. Office		Manchenthoduvai, Kattankudy, Sri Lanka	1975
5	Mr. Kumudaregama Dayaratna Bandara	28	Instructor, Sri Lanka - Japan Rural Development Project (Bewabawa)		Alawattegama Gallelagama (via Kandy) Sri Lanka	1975
6	Mr. S. K. S. de Silva	41	Agricultural Officer		Dept. of Agriculture Peradeniya, Sri Lanka	1976
7	Mr. Mohamed Uvais	41	Agricultural Officer, Department of Agriculture		- " -	1977
8	Mr. Muthu-Bandara Wijesundera	33	Agricultural Inspector Department of Agriculture		- " -	1978
9	Mr. Piyasena Wanasinghe	41	Asst. Director of Agriculture, Dept. Agriculture		- " -	1979
10	Mr. Vaitly Sarasinganey	42	Colonization Officer, Ministry of Agricultural Development & Research, Land Commissioner, Colombo		Regala Youth Scheme, Haigrenoga, Sri Lanka	1980

No	氏 名	年 令 研 究 年 限	現 職	所 屬 先	參 加 年 度
12	Mr. Wimalaratne Bande Dissanayake	33	Asst. Land Commissioner, Land Commissioner's Department	Land Commissioner's Dept. 321 Galle Road, Colombo 3, Sri Lanka	1980
13	Mr. Kithsiri Bowatte	33	Agriculture Instructor, Agriculture Research Division, Dept. of Agri.	Dept. of Agriculture, Peradeniya, Sri Lanka	1981
14	Mr. P. A. D. Jayawardena	45	Colonization Officer, Land Commis- sioner's Department	Land Commissioner's Department, 321 Galle Road, Colombo 3	1982
15	Mr. W. K. K. Kumarasiri	36	Asst. Land Commissioner, Land Commissioner's Department	" - "	1982
16	Mr. K. G. Andrayas	45	Asst. Director of Agriculture, Extension Div., Dept. of Agri.	Dept. of Agriculture, Peradeniya, Sri Lanka	1983
17	Mr. Manis Bogahawatta	46	Agricultural Officer, Agricultural Extension Div., Dept. of Agriculture	Dept. of Agriculture Peradeniya, Sri Lanka	1984
18	Mr. R. M. Nissanka	37	Minor Crops Extension Officer, Department of Minor Export Crops	Dept. of Minor Crops Getambe-Peradeniya, Sri Lanka	1985

○ 印 實 體 林 區 級

□ 印 面 積 者

3. Questionnaire

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY (JICA)

P. O. BOX 216 MITSUI BLDG  
2-1, NISHI-SHINJUKU, SHINJUKU-KU TOKYO  
160 JAPAN

---

Date: September 1, 1986

Dear Sir,

I am writing to you with the hope that you are actively engaged in your work in excellent health and in high spirits since you returned to your country after training in Japan.

It is a pleasure for me to inform you that the Japan International Cooperation Agency is doing utmost efforts to expand and improve its technical training program year after year. We have accepted a total of 57,942 participants from developing countries during the period of 1954 - March 1986. In fiscal 1986, we plan to accept about 4,500 participants and conduct 226 group training courses and seminars.

In programing future training course, we endeavour to place emphasis not only on increasing the number of participants to meet the augmenting requests from developing countries but also on improving the quality of training programs.

For this purpose we would like to know how and to what extent the ex-participants in our training courses/seminars are making use of knowledge and technology acquired in Japan and to hear what suggestion and recommendation they have for the batterment of our courses.

It is also important to brush-up and up-grade what you learned in Japan. Therefore, JICA dispatches technical follow-up team to participating countries every year to provide you with information on latest developments in your field of activity.

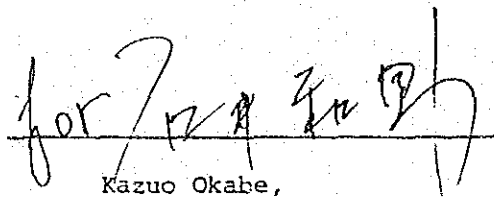


This year JICA has decided to send to your country a follow-up team in the field of your expertise. Details of its schedule and the questionnaire are enclosed herewith.

We shall be grateful if you could extend your kind cooperation to our visiting team during its stay in your country.

We are really looking forward to seeing you.

Yours sincerely,

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'for Kazuo Okabe', written over a horizontal line.

Kazuo Okabe,

Director,

Training Affairs Department,

Japan International Cooperation Agency

Follow-up Team for Ex-participants of the Group Training Course in Agricultural Extension Service

1. Objective: The Follow-up Team will visit ex-participants' organization and related organs for the purpose of offering guidance through consultation, evaluating the results of training in Japan and assessing problems and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training programme.
2. Period: From October 27, 1986 to November 15, 1986.  
For details, please refer to the tentative schedule attached herewith.
3. Members:
  - a. Mr. Kazue Kimura  
Senior Guidance Officer, Extension and Education Division,  
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
  - b. Mr. Sadao Isono  
Director, Department of Extension Materials,  
Japan Agricultural Development and Extension Association
  - c. Mr. Masahiko Nozue  
Training Officer, First Training Division,  
Training Affairs Department,  
Japan International Cooperation Agency

Cooperation Requested to You

1. We would like to request you to prepare a short report according to the Questionnaire and send it to the following address by October 25, 1986.

(Thailand) JICA Thailand Office  
c/o Embassy of Japan,  
1674 New Petchburi Road, Bangkok 10310,  
Thailand

(Burma) Mr. Tadashi Shinoura  
c/o Embassy of Japan  
No. 100, Natmauk Road, Rangoon,  
Burma

(Sri Lanka) JICA Sri Lanka Office  
49, Sir Ernest de Silva Mawatha, (Flower Road),  
Colombo 7,  
Sri Lanka

2. We would like to visit some organizations in your country according to the schedule.  
The appointment with the persons to meet and about the date and the place of the meeting will be arranged by JICA Office in your country.  
The further information about our visit will be informed to you directly or through your superior.

TENTATIVE SCHEDULE OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS OF AGRICULTURAL EXTENSION SERVICE COURSE, 1986

1. October 27 (Mon) Arrival in Bangkok (17:10) by TG641
2. 28 (Tue) Meeting with JICA Office and Embassy of Japan  
Courtesy call and discussion with D.T.E.C.
3. 29 (Wed) Visit to Dept. of Agricultural Extension  
Lecture, Meeting with Ex-participants
4. 30 (Thu) Visit to Suphanburi Training Center
5. 31 (Fri) Report to JICA Office and Embassy of Japan
6. November 1 (Sat) Visit to Kasetsart University
7. 2 (Sun) Free
8. 3 (Mon) Move from Bangkok (14:50) to Rangoon (15:30) by TG305  
Meeting with JICA Office
9. 4 (Tue) Courtesy call and discussion with Embassy of Japan and F.E.R.D.  
Visit to Agricultural Corporation  
Lecture, Meeting with Ex-participants
10. 5 (Wed) Visit to C.A.D.T.C.
11. 6 (Thu) Visit to Agricultural Extension Office
12. 7 (Fri) Report to JICA Office and Embassy of Japan
13. 8 (Sat) Move from Rangoon (16:30) to Bangkok (18:10) by TG306
14. 9 (Sun) Move from Bangkok (10:40) to Colombo (12:25) by TG307
15. 10 (Mon) Meeting with JICA Office and Embassy of Japan  
Courtesy call and discussion with Dept. of External Resources,  
Ministry of Finance and Planning
16. 11 (Tue) Visit to Dept. of Agriculture  
Lecture, Meeting with Ex-participants in Kandy
17. 12 (Wed) Meeting with Ex-participants in Colombo
18. 13 (Thu) Report to JICA Office and Embassy of Japan
19. 14 (Fri) Move from Colombo (13:25) to Bangkok (18:10) by TG308
20. 15 (Sat) Arrival in Tokyo (06:05) by JL713

QUESTIONNAIRE FOR EX-PARTICIPANTS  
IN  
AGRICULTURAL EXTENSION SERVICE COURSE

October, 1986

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

Kindly give answers to the following questions in block letters or in typewriting.

I. ABOUT YOURSELF

1) Name: \_\_\_\_\_

2) Country: \_\_\_\_\_

3) Date of Birth: \_\_\_\_\_

4) Home address: \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

5) The year of your participation: \_\_\_\_\_

6) Course: \_\_\_\_\_

7) Occupation:

(1) Present Position

Name and Address of Employer:

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Your Post: \_\_\_\_\_

Since 19 \_\_\_\_\_

(2) Previous Position: \_\_\_\_\_

From 19 \_\_\_\_\_ To 19 \_\_\_\_\_

(3) Position prior to the participation in the Course

Name and Address of Employer:

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Your Post: \_\_\_\_\_

II. ABOUT YOUR OCCUPATION

1) How are your present duties connected with the training you received in Japan?

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

2) In what specific area are you making use of the results of the training course in Japan?

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

3) How are you making use of the knowledge and experiences you acquired in Japan? Please mark appropriate boxes.

I am utilising the above experiences for:

- Lectures in school or training center
- Training courses and seminars
- Making reports and writing articles in technical literature
- Informing personally to the staff
- On-the-job training
- Others

4) Please outline briefly the duties of your service in your country.

---

---

---

---

---

---

5) Please point out the problems, if any, you have encountered in performance of your official duties in your specialized field.

---

---

---

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

6) Please point out the difficulties, if any, you have experienced in your trials in solving them?

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

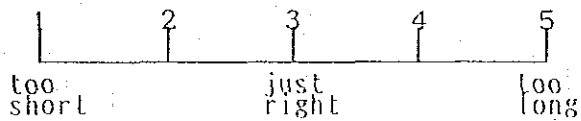
\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

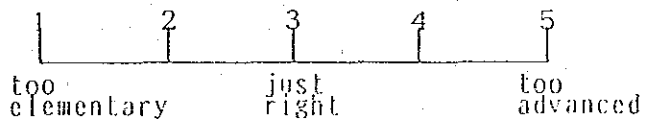
\_\_\_\_\_

III. ABOUT THE TRAINING COURSE

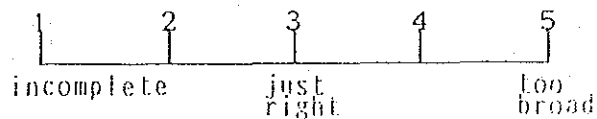
1) Duration



2) Level



3) Subjects



4) For the participant who answered "incomplete" or "too broad," please state the reason and the subjects you wanted to add or delete.

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

---

---

5) Please raise two major items which you were interested in or found useful in the Course.

(1) \_\_\_\_\_

(2) \_\_\_\_\_

6) Could you write down how you think you could utilize the above-mentioned knowledge in planning or fulfilling your duties?

---

---

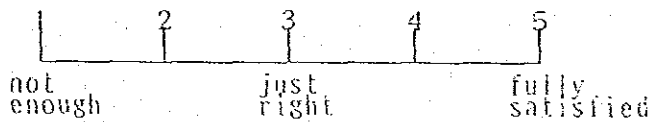
---

---

---

---

7) Were you satisfied with the field trips?



8) For the participant who answered "not enough," please explain what the problems are and how you think they could be improved.

---

---

---

---

---

---

9) Please give us any comments which you may consider useful in organizing the future Course.

---

---

---

---



---

---

---

---

---

IV. AFTERCARE SERVICES

1) Do you feel it necessary to organize a refresher training course in the future?

YES

NO

2) For the participant who answered "YES," please give us any suggestions regarding the following items.

A) Contents

---

---

---

---

---

B) Duration

---

---

---

---

3) What are the two major problems you are facing about the Agricultural extension service in your country?

---

---

---

---

---

V. OTHERS

1) Have you ever participated in a training course conducted by a foreign government other than Japanese Government?

YES                       NO

2) For the participant who answered "YES," please give us the outline of the Course regarding to the following items.

A) Country \_\_\_\_\_

B) Duration from \_\_\_\_\_ to \_\_\_\_\_

C) Name of the course and course contents

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

Thank you for your kind cooperation.

4. 当該国訪問機関に提出した英文報告書

(1) タ イ

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS

IN THE COURSE OF AGRICULTURAL EXTENSION SERVICE

1. INTRODUCTION

It is our great pleasure to have the opportunity to visit Thailand as Technical Follow-up Team for ex-participants of the Group Training Course in Agricultural Extension Service.

As its well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has been conducted a number of training programs in various kinds of fields, and JICA has been sending Follow-up Team to the participated countries in order to improve these programs.

In Agricultural Extension Service Course, JICA accepted 345 participants from 17 different countries including 20 participants from Thailand during 1971 to 1986.

Before leaving this country, we submit a brief report based on our activities for 7 days.

2. OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP TEAM

The follow-up Team's aims are to visit ex-participants' organizations and related organizations for the purpose of offering guidance through consultation, evaluation the results of training in Japan and assessing programs and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training program.

3. TEAM MEMBER

a. Mr. Masanobu KATO

The Specialist of Agricultural Extension Service

b. Mr. Sadao ISONO

Director, Department of Extension Materials,  
Japan Agricultural Development and Extension Association

c. Mr. Masahiko NOZUE

Training Officer, First Training Division,  
Japan International Cooperation Agency

d. Mr. Katsuaki HAYASHI

Ministry of Agriculture Forestry and Fisheries  
(Advisor)

#### 4. TEAM'S ACTIVITIES

During this stay, we were able to see many ex-participants and number of people concerned. (the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report.)

#### 5. FINDINGS AND OPINIONS FROM EX-PARTICIPANTS AND PEOPLE CONCERNED

As a result of the questionnaires, and interview with the ex-participants and authorities concerned, our team wishes to give the following impressions and comments:-

- 1) The Group Training Course in Agricultural Extension Service is highly appreciated by the people concerned.
- 2) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties, and have done some projects successfully by using extensional method which they learned in Agricultural Extension Course in Japan.

3) But generally, many participants have faced severe problems which aren't responsibility for them. For example, some mainly products cannot sell expectable market price caused by marketing. We suppose, if these severe problems will be resolved, the results of their duties will be recognized furthermore.

#### 6. CONCLUSION REMARKS

Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments and suggestions.

We are very happy that we could know this course have been appraised by the people in this country.

We hope that these comments will be given due consideration by both Thailand and Japanese authorities so that steps to the better course.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation with us during the period of our stay in Thailand.

Lastly, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Department of Technical and Economic Cooperation, Department of Agricultural Extension, Department of Agriculture, Kasetsart University, JICA Thailand Office and Embassy of Japan.

Thailand

November 3, 1986

加藤政信

Mr. Masanobu KATO

Team Leader,

Follow-up Team for Ex-participants

in Agricultural Extension Service Course

The name of the people and the date

The Follow-up team met

(Authorities, Ex-participants, in due order)

October 28, 1986 (Tue)

- |                         |   |
|-------------------------|---|
| 1. Mr. M. GOTO          | Director, JICA Thailand Office                            |
| 2. Mr. H. KASAHARA      | Assistant Resident Representative<br>JICA Thailand Office |
| 3. Mr. K. NAGAYAMA      | First Secretary, Embassy of Japan                         |
| 4. Mr. P. Soontornpipit | Director of Division I, DTEC                              |
| 5. Mr. S. Susila        | Japan Sub-Division, DTEC                                  |

October 29, 1986 (Wed)

- |                    |  |
|--------------------|--|
| 1. Mr. P. Wannapee | Deputy Director, Department of Agricultural<br>Extension                     |
| 2. Mr. E. Ocharoen | Planning & Special Projects Division<br>Department of Agricultural Extension |

(Ex-participants in due participated year)

3. Mr. P. Keewplung (1971)
4. Mr. W. Panyavansiri (1972)
5. Mr. B. Wiyaporn (1975)
6. Mr. S. Pisthatorn (1976)
7. Mr. S. Kirdintra (1977)
8. Mr. V. Choochunklin (1977)
9. Mr. P. Boonyakarngang (1978)
10. Mr. S. Pengpinit (1979)
11. Mr. S. Teechapalokul (1980)
12. Mr. T. Saleesung (1981)
13. Mr. S. Nithagorn (1982)
14. Mr. W. Pholprasert (1982)
15. Miss P. Rodmanee (1983)

16. Mr. S. Meesang (1983)
17. Mr. C. Ruksorn (1983)
18. Mr. T. Eamsri (1984)
19. Mr. S. Nalampoon (1985)
20. Mr. N. Martwanna (1986)

October 30, 1986 (Thu)

- |                     |   |
|---------------------|---|
| 1. Mr. V. Sasiprapa | Assistant Training Manager, Suphanburi<br>Training Center |
| 2. Mr. Chida        | Expert from Japan   |
| 3. Mr. C. Choovizit | Director of Eastern Agricultural<br>Extension Office      |

October 31, 1986 (Fri)

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| 1. Mr. P. Khumgliang  | Head of National Agricultural Extension<br>and Training Center in Kasetsart University               |
| 2. Mr. B. Bhaholyotin | Head, Agricultural Machinery Center,<br>Kasetsart University, Kamphaengsaen<br>Campus, Nakorn Pathom |



(2) ビルマ

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS  
IN THE COURSE OF AGRICULTURAL EXTENSION SERVICE

1. INTRODUCTION

It is our great pleasure to have the opportunity to visit Burma as Technical Follow-up Team for ex-participants of the Group Training Course in Agricultural Extension Service.

As its well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has conducted a number of training programs in various fields, and JICA has been sending a Follow-up Team to the participating countries in order to improve these programs.

In Agricultural Extension Service Course, JICA accepted 345 participants from 17 countries including 8 participants from Burma during 1971 to 1986.

Before leaving this country, we submit a brief report based on our activities for 5 days.

2. OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP TEAM

The follow-up Team's aims are to visit ex-participants's organizations and related organizations for the purpose of offering guidance through consultation, evaluating the results of training in Japan and assessing programs and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training program.

### 3. TEAM MEMBER

- a. Mr. Masanobu KATO  
The Specialist of Agricultural Extension Service
- b. Mr. Sadao ISONO  
Director, Department of Extension Materials,  
Japan Agricultural Development and Extension  
Association.
- c. Mr. Masahiko NOZUE  
Training Officer, First Training Division,  
Japan International Cooperation Agency.
- d. Mr. Katsuaki HAYASHI  
Ministry of Agriculture, Forestry and  
Fisheries (Advisor)

### 4. TEAM'S ACTIVITIES

During this stay, we were able to see many ex-participants and number of people involved, (as for the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report).

### 5. FINDINGS AND OPINIONS FROM EX-PARTICIPANTS AND PEOPLE CONCERNED

As a result of the questionnaires, and interviews with the ex-participants and authorities concerned, our team wishes to give the following impressions and comments:-

- (1) The Group Training Course in Agricultural Extension Service is highly appreciated by the people concerned.
- (2) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties, and have done some projects successfully by using extensional method which they learned in Agricultural Extension Course in Japan.
- (3) The effect of public relations (PR) is widely recognized. For example, posters and leaflets are popular with farmers. Higher effects can be expected by using them in assisting the farmer's agricultural management by using PR method, ex-participants are able to do their duties effectively furthermore.

6. CONCLUSION REMARKS

Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments and suggestions.

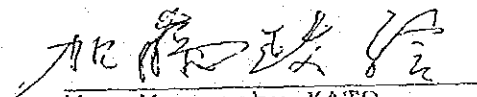
We are very happy that we could give this course and be appraised by the people in this country.

We hope that these comments will be given due consideration by both Burma and Japanese authorities so that steps be taken to a better course.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation to us during the period of our stay in Burma.

Lastly, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Foreign Economic Relations Department, Agriculture Corporation, Hlegu Township Agricultural Extension Office, and the Central Agriculture Development Training Center, the Embassy of Japan, JICA Burma Office.

Burma  
November 7, 1986.



Mr. Masanobu KATO  
Team Leader,  
Follow-up Team for  
Ex-participants in  
Agricultural Extension  
Service Course

The Name of the People and the Date

The Follow-up Team Met  
(Authorities, Ex-participants, the people concerned with,  
in due course)

November 4, 1986 (Tue)

1. Mr. M. TSUKAMOTO Ambassador, Embassy of Japan.
2. Mr. N. KAWATA First Secretary, Embassy of Japan.
3. U KIN WIN Managing Director, Agriculture Corporation.
4. Mr. T. SHINOURA Director, JICA Burma Office.
5. Mr. Y. KITAMURA Assistant Director, JICA Burma Office.

(Ex-participants in due participated year)

6. U TUN YEE (1978)
7. U KHIN MAUNG AYE (1979)
8. U MYA THWIN (1981)
9. U AUNG THAN (1982)
10. U KHIN MAUNG KYI (1983)
11. U THIN PHE (1984)
12. U KYAW TINT (1985)

November 5, 1986 (Wed)

1. Mr. S. NAKAMURA Leader of Expert, CADTC
2. Mr. R. NARITA Expert, CADTC
3. Dr. AUNG MYINT Project Manager, CADTC
4. U SOE MYINT Assistant General Manager CADTC
5. U KHIN MG YIN " " " "
6. U TIN NWE " " " "
7. U SAW HLA Lecturer, CADTC
8. DR. TIN OO " "

November 6, 1986 (Thur)

1. U KYIN HTUN Township Manager, Hlegu Township
2. Deputy Township Managers
3. Village Managers

November 7, 1986 (Fri)

1. U KYAW TIN Director, Foreign Economic Relations Department
2. U TIN OO Chief of Section, Foreign Economic Relations Department

BRIEF REPORT OF THE FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS

IN THE COURSE OF AGRICULTURAL EXTENSION SERVICE

1. INTRODUCTION

It is our great pleasure to have the opportunity to visit Sri Lanka as Technical Follow-up Team for ex-participants of the Group Training Course in Agricultural Extension Service.

As its well known, Japan International Cooperation Agency (JICA) has conducted a number of training programs in various fields, and JICA has been sending a Follow-up Team to the participating countries in order to improve these programs.

In Agricultural Extension Service Course, JICA accepted 345 participants from 17 countries including 17 participants from Sri Lanka during 1971 to 1986.

Before leaving this country, we submit a brief report based on our activities for 5 days.

2. OBJECTIVES OF THE FOLLOW-UP TEAM

The follow-up Team's aims are to visit ex-participants' organizations and related organizations for the purpose of offering guidance through consultation, evaluating the results of training in Japan and assessing programs and needs in participants' countries as well as for improving JICA's training program.

3. TEAM MEMBER

- a. Mr Masanobu KATO  
The Specialist of Agricultural Extension Service
- b. Mr Sadao ISONO  
Director, Department of Extension Materials,  
Japan Agricultural Development and Extension Association
- c. Mr Masahiko NOZUE  
Training Officer, First Training Division,  
Japan International Cooperation Agency

4. TEAM'S ACTIVITIES

During their stay, we were able to see many ex-participants and number of people involved. (as for the name of the people we met, see the list that is attached in the last part of this report.)

## 5. FINDINGS AND OPINIONS FROM EX-PARTICIPANTS AND PEOPLE CONCERNED

As a result of the questionnaires, and interviews with the ex-participants and authorities concerned, our team wishes to give the following impressions and comments:-

- 1) The Group Training Course in Agricultural Extension Service is highly appreciated by the people concerned.
- 2) We have learned the ex-participants have been doing their best in their respective duties, and have done some projects successfully by using extensional method which they have learned in Agricultural Extension Course in Japan.
- 3) Most of Ex-participants play an important role in training the Agricultural Extension Officers. Therefore, newly technical informations about programming, practicing are required as the teaching materials.

## 6. CONCLUSION REMARKS

Our meeting with ex-participants and government officials were cordial, frank and deep enough to find many constructive comments and suggestions.

We are very happy that we could give this course and be appraised by the people in this country.


We hope that these comments will be given due consideration by both Sri Lankan and Japanese authorities so that steps be taken to a better course.

We would like to express our deepest gratitude to the people we met and authorities concerned for the warm welcome and kind cooperation to us during the period of our stay in Sri Lanka.

Lastly, we wish to express our sincere appreciation and gratitude to the kindness of Department of External Resources, Department of Agriculture Peradeniya, The Embassy of Japan, JICA Sri Lanka Office.

Sri Lanka

November 13, 1986



Mr Masanobu KATO

Team Leader,

Follow-up Team for Ex-participants  
in Agricultural Extension Service  
Course

THE NAME OF THE PEOPLE AND THE DATE THE FOLLOW-UP TEAM MET  
(AUTHORITIES, EX-PARTICIPANTS, THE PEOPLE CONCERN WITH  
IN DUE ORDER)

NOVEMBER 10, 1986 (Mon)

1. Mrs C. Amarasekera - Additional Director  
Dept of External Resources
2. Mr J. Hashiguchi - Director  
JICA Sri Lanka Office
3. Mr S. Kimura - Assistant Director  
JICA Sri Lanka Office
4. Mr M. M. P. Madurasinghe - Assistant Coordinator  
JICA Sri Lanka Office

NOVEMBER 11, 1986 (Tue)

1. Dr Gunawardene - Director  
Dept of Agriculture Peradeniya
2. Mr Pabeywardena - Deputy Director (Extension Division)  
Dept of Agriculture Peradeniya
3. Mr M. P. B. Abeysinghe - Assistant Director  
Dept of Agriculture Peradeniya  
(Ex-participants, in due participated year)
4. Mr M. Wijesundera (1978)
5. Mr W. M. Piyasenaney (1979)
6. Mr K. Bowatte (1981)
7. Mr M. Bogahawatta (1984)
8. Mr R. M. Nissanka (1985)

NOVEMBER 12, 1986 (Wed)

1. Mr E. S. Gunatijaka (1972)
2. Mr A. Karthigesu (1984)
3. Mr K. K. S. De Silva (1976)
4. Mr M. Uvais (1977)
5. Mr W. B. Dissanayake (1980)
6. Mr P. A. D. Jayawardena (1982)
7. Mr W. K. K. Kumarasiri (1982)



NOVEMBER 13, 1986 (Thur)

1. Mr Toshinao Urabe - Charge D' Affairs A. I.  
Embassy of Japan
2. Mr Atsushi Matsumoto - Third Secretary  
Embassy of Japan

JICA